

京	都	府
1・13 京都婦人唱歌会竜池校で第1回総会開催。 日出 1・18		6・一 祇園会の「白楽天山」大破の故に本年から15年間休止の旨府へ届出。 日出 6・23
1・20 遊芸人研究会の発起人懇談会開催。 ⁽²⁾ 日出 1・9		7・5 四条北側劇場、中村梅昇 ⁽⁷⁾ 一座開場、暑季観客少く14日打上、大津柴屋町劇場で興行。 日出 7・18
1・25 四条南側劇場、文楽座引越興行開場。 日出 1・26		7・31 四条の芝居茶屋一同近頃不景気、疏水工事費の負担に堪えないと下京区長へ減額願出たが却下。8・9再度願出に及んだが、区会議決後ゆえ困難。 日出 8・11
1・一 正月例年賑かに訪れる大和・三河万才の入込散漫（豊作の地元で精一杯、奈良県はかなり多忙）。 日出 1・12		7・一 優秀な音楽教師5名を給費入所させる旨東京音楽伝習所から申入。 日出 7・4
1・一 岩神座（2日開場）・千本座（1日）・中竹座大入。 ⁽¹⁾ 日出 1・6、17		7・一 孟蘭盆会近く、六斎念仏が市中へ出廻るのに葛野・久世の各村では受持区域を定め芸にヴァリエーションを加えようと準備中。日出 7・19
1・一 夷谷座へ銀行筋から引幕贈呈。 ⁽³⁾ 日出 1・24		7・一 昨年建設した伏見稲荷能舞台の経費3,000円を賄うため福栄講という講を設立（10日世話掛有楽館で相談会開催）。 日出 7・11
2・1 坂井座・京角座・夷谷座・祇園座開場、競演。 ⁽⁵⁾ 日出 2・8		8・7 京都婦人唱歌会銅駝校で本年大試験挙行。 日出 8・7
2・8 三世実川延三郎没、33歳。日出 3・2		9・8 坂井座、嵐橋三郎一座開場。（切狂言樽屋お仙の殺場に普通雀踊が行われるが近村の六斎念仏を雇って行う。25日千秋楽。続興行荒五郡抜け、紫琴・寿三郎加入、10・3開場）。 日出 9・16、9・27
2・14 南側劇場で1週間祇園芸妓50数名の浄瑠璃温習会開催。浄瑠璃素人間にも大いに流行。 日出 2・11、12		10・7 夷谷座、届出の興行期限過ぎてなお続行、開演中、中止命令。 ⁽⁶⁾ 日出 10・9
2・一 西陣で芝居講設立。 ⁽⁴⁾ 日出 2・1		10・14 申楽クラブ別会能開催。 日出 10・7
2・一 祇園歌舞練場、場内4カ所・玄関1・門1電灯設備を京都電灯会社（明20・11創立）と交渉、22・4実施。 ⁽⁶⁾ 日出 2・29、電灯50年史		10・14 都踊、第3回関西府県聯合共進会余興として開催（春興行よりも美事な舞台）。 日出 10・16
3・10、11 観世舎で片山九郎右衛門25回忌追善能。 日出 3・9		10・20～21 片山能舞台新築落成、舞台開き能楽開催。 日出 9・29
3・11 金剛流脇師鈴木禎次郎10年祭を申楽クラブで開催。 同上		10・20 盲啞院生徒50余人裏寺町西林寺で音曲大会開催（三味線・琴・胡弓・竹笛等番組数62）。 日出 10・17
3・12 雅楽会創立（若王子遠文・冷泉為紀・藤村雅元・大谷光瑩らが旧伶人数名と会を起し、毎月2回演奏会開催）。 日出 3・14		10・22 坂井座、3日開場した橋三郎一座興行打上。 日出 10・26
3・一 興行場数調、演劇場11・寄席197。 日出 3・15		11・1 醍醐村天神社へ金剛流能楽奉納。 日出 11・1
4・1 府立第一女学校規則改正、茶儀・生花・絃歌の三科を設置、随意科とする。第一高女一覽		11・1 坂井座、橋三郎一座に実川八百蔵加わり開場。 日出 10・26
4・1 南側劇場、越路太夫一座開場。 日出 3・28		11・3 京角座、中村福円・三樹源五郎・中村福平・実川延五郎ら一座開場。 日出 10・26、28
4・1 福井座、大谷友吉ら一座の女芝居開場。 日出 3・24		11・15 四条南側劇場、宗十郎・右団次・瑠寛・雀右衛門・我童・雁治郎・徳三郎一座顔見世興行開場。 日出 11・3
4・3 祇園座、巖笑・荒太郎一座開場。 日出 3・28		11・一 新京極大虎座・大西座の両俄芝居では市井の殺人事件（日出記事）を脚色興行、連日大入。 日出 11・27
4・8 申楽クラブ能会。 日出 4・8		12・1 大市座（祇園座）、荒太郎・巖笑ら一座開場。 日出 12・1
4・一 観世片山晋三門人らの協力で柳馬場夷川下ル晋三宅の南隣に能舞台新築を計画。 日出 4・10		12・3 京角座、福円・源五郎・大谷友吉一座開場。 日出 11・28
4・一 岩神座々元伊佐町本田政二郎外2名が譲受け7千円かけて祇園座風の建物に改築計画。 日出 4・13		この年 ▷ 正虎3回忌に当り茂山千作千五郎襲名「腹鼓」 ⁽⁹⁾ 開曲。
4・一 祇園座、京阪数氏共同買収し、大市座と改称、奥に食堂表に事務所を新築計画。 日出 4・29、5・19		
5・9 金剛流、豊国神社へ能楽奉納。 日出 5・9		
5・12 観世舎能会。 同上		
5・15 福井座、女芝居一座、切の「進軍歌の舞」に20名程束髪カヅラ女生徒の扮装で手踊。 日出 5・12		

参	考	日	本
(1) 岩神座一座沢村基当・嵐寛松・嵐栄太郎・浅尾滝車・片岡当京・実川八百枝・中村重三郎・嵐獅光・嵐獅巖。「越廼山踏牧の月影（日出連載）・源平流の枝」。中竹座前的一座に中村福平・嵐清蔵加入。「平井権八・重野井子別、妹背山・明鳥」。		1・一	猿若町市村座、新築落成。
(2) 遊芸人達は時勢に鑑み各自芸道を研究、社会に益する努力をするべきと桂藤兵衛（落語）・山崎琴書（講談）・東玉（俄）が発起、京都の遊芸人は残らず参加を提唱。		2・一	小中村清矩「歌舞音曲略史」刊。
(3) 加った所は、第1国立銀行・第49国立銀行・第111国立銀行・三井銀行・京都商工銀行・京都米商会所・株式取引所。 日出 1・24		2・一	3世実川延三郎没、33歳。
(4) 西陣織物商では5人以上雇人を置くものが申合せ、芝居講作る。主人雇人一同5円乃至3円積立て、利子で休み毎に芝居見物をして悪所へ行かぬよう戒める。 日出 2・1		2・一	観世清孝没、52歳。
(5) 坂井座、中村仙昇・坂東太郎ら一座「観善懲悪観機関・御所桜堀川夜討・開化春東京新聞・義経腰越状」。夷谷座、梅暁・由尾・仙歌・花十ら一座「桜田雷誠忠忠談・名筆反魂香・彫刻左小刀」（井伊掃門頭首斬の絵看板撤去とその演技停止を旧彦根藩士某が申入れ善処した）。 日出 2・10		5・一	中村座、菊五郎「月梅薫籠夜」上演、菊五郎の花井お梅の箱屋殺し好評。
(6) 4月上旬都踊開催に備え京都電灯と相談したが、同社では電気器械なく東京の会社（明14東京久松座に電灯点ず）に照会、器械運送賃技師手当など15日間予想以上700円を要するので今年は見合せとなる。 日出 3・14		5・一	3世中村福助没、43歳。
(7) 中村梅昇は能楽家野村三次郎の養子だった巽亀太郎の転身、一座は実川小延童・市川団三郎・中村梅女ら、5・6月は南側劇場で興行、相当の成績。 日出 6・3		7・一	演芸矯風会設立。（会長田辺太一、歌舞伎・講談・落語・邦学の矯正を目的。
(8) 8・7から10・2まで60日間の届出。期限に気附かず興行を続け、7日日曜でもあり大入のところ下京警察署から巡査3人来場、直ちに中止解散を命じた。座側陳謝、観客に入場料を返し解散。 日出 10・9		7・一	式部職雅課、式部職雅楽部に改正。
(9) 「腹鼓」は千五郎家では重い習いもの一つとなっているが名ばかりで何も伝っていない。喜多家に伝るものがある。井伊大老がこれを改作、型付・装束は正虎が考案。「腹鼓」と名附けられた。嘉永5年正虎初演。演能には井伊家へ挨拶に行き、伝来の狸と尼の面を拝借に及ぶ。千五郎家では一子相伝のものとなっている。（戦後は弥太郎家でも演能）。		8・一	陸軍軍楽基本隊、軍楽生徒50名募集（期間20日）。
		9・2～3	音楽学校入学試験施行。
		11・1	松旭斎天一、浅草文楽座で60日間奇術興行。人気大。
		12・3	角藤定憲ら、大阪新町座で壮士芝居旗上。「耐忍之書生貞操之佳人・勤王美談上野の曙」。
		この年	
		▷	名古屋の鈴木政吉ヴァイオリン製作始める。
		▷	橋智定、筑前琵琶創始。
		▷	この頃から軍歌盛。
		▷	娘義太夫流行の初め。
		▷	秋、川上音二郎、桂文之助に入門、〇〇童子と称し、時事諷刺・オッパケペー節で活躍。

京	都	府
1・18 北側劇場、越路太夫一座興行。 日出 1・16		5・1 鴨川夕涼の季節に河原を借るもの年々増加現在借用出願者70余名。 ⁽⁶⁾ 日出 5・10
1・30 受楽亭開場式 ⁽¹⁾ 挙行。 日出 2・1		6・1 夷谷座、市川由尾・嵐島之助ら一座開場。 日出 5・28
1・一 南側劇場、実川延二郎一座開場。 日出 1・1		6・6 四条南側劇場、雁治郎・巖笑・吉三郎・珊瑚郎・正朝・鶴助ら一座開場。 日出 6・2
1・一 大市座、市川福升・中村玉枝ら一座興行。 同上		6・一 大黒座、市川滝十郎・米十郎・中村新駒・福平・飛雀・海女・嵐三勝ら一座興行。 日出 6・17
1・一 坂井座、右団次一座興行。 同上		6・一 千本座、片岡市丸ら一座興行。 日出 6・21
1・一 夷谷座、中村島之助一座興行。 同上		7・17 京角座、嵐甚平一座 ⁽⁷⁾ 開場。近來の大入。 日出 7・17
1・一 大黒座、中村千太郎一座興行。 同上		7・24 宮津近村の若者たち氏神祭りに素人芝居上演（芝居に反対の青年もある）。日出 7・27
1・一 福井座、女役者大谷友吉一座興行。 同上		7・一 下旬大黒座改築。 日出 7・14
1・一 京角座、嵐吉五郎一座興行。 同上		8・1 大市座（元祇園座）、坂東利喜松一座開場。 日出 7・25、31
1・一 岩神座、実川新四郎一座興行。 同上		8・1 京角座、中村新駒・福平一座開場。 日出 8・1
1・一 千本座、中村福十郎、尾上多三郎一座興行。 同上		8・1 大虎座、正玉・馬鹿八道具入新作俄興行。 同上
1・一 池坊、東京に華務課出張所を置く。いけ花歴史年表		8・1 中竹座、粟亨東玉一座開場。 日出 7・28
2・1 夷谷座、市川由尾一座開場。 日出 1・27		8・4 四条北側劇場、文楽座越路太夫一座開場。 日出 8・2
2・3 坂井座、八百蔵・仙昇・荒太郎・巖笑一座興行。 日出 1・30		8・18 神宮教会所（寺町四条下）で有志が狂言奉納。 日出 8・18
2・3 申楽クラブ能会。 日出 2・3		8・23 幾代席、桂藤兵衛の改良俄開場。 日出 8・23
2・10 観世舎、大西鑑一郎主催能会。 同上		8・25 四条南側劇場、ジャグラー操一手品開場。 日出 8・31
2・11 金剛謹之助主唱憲法発布祝能有楽館で開催。 日出 2・10		8・31 祇園座、坂東利喜松一座開場。 日出 8・24、31
2・17 四条北側劇場角藤定憲一座の壮士芝居 ⁽⁹⁾ 興行、「耐忍の書生貞操の佳人・勤王美談上野の囃」。 日出 1・27		8・一 四条南側劇場、実川小延童・市川団三郎・大谷友松ら一座興行。 日出 8・2
2・一 興行クラブ ⁽²⁾ 結成。 日出 2・5		9・1 夷谷座、女芝居市川由尾一座開場。 日出 8・31
2・一 四条南側劇場、淡路人形浄瑠璃（日の出座）興行、昼は男太夫夜は女太夫出演。 日出 2・13		9・15 観世舎能楽開催。 日出 9・12
3・22 午前1時新京極南部大火33戸全焼（錦天神・河村席・尾崎講談常席・錦影絵席焼失。続続復興新築進捗、錦天神再建寄附金も2,300円集る）。 日出 3・23、4・6		9・15 申楽クラブ能楽開催。 同上
3・31～4・2 中竹座（上京花開院町北村万助所有）で西陣辺素人の舞渡え・浄瑠璃会開催。 日出 3・31		9・20 京角座、訴訟事件落着し ⁽⁸⁾ 、亀岡座嵐甚昇一座に実川延昇・尾上多喜江加入開場。 日出 9・20
3・一 祇園座、大市座と改称、京阪数氏が買収し食堂・事務所増築計画。 日出 3・23		9・一 笑福亭、東京下り翁屋しん馬の改良怪談人情斬・長崎上り曲弾師笑福亭円篤・文我・文福・米三ら落語の吹寄興行。 日出 9・5
4・6 坂井座、東京若手俳優一座 ⁽⁴⁾ で開場。（5・1二の替り開場、6・1三の替り）。 日出 4・6、26、5・24		10・5 婦人唱歌 ⁽⁹⁾ 会講習終了式電池校で挙行。 日出 10・8
4・7 観世舎齋久衛門「絵垣」開曲。 日出 3・29		10・5 坂井座、雀右衛門・橋三郎・福円・若橋ら一座開場、日出 9・25。（大入、26日休、11・4まで日延）。
4・19 大市座、オーストリア曲馬団興行（5・15まで、入場料1円20・50銭・25銭・15銭）。 日出 4・21、30、5・5		10・7 祇園座、利喜松ら一座で開場。（一座23日から京角座出演大人気）。 日出 10・6、10、19、22
5・15 今宮祭 ⁽⁹⁾ を小松宮彰仁親王御覧。 日出 5・15		
5・23 千玄室（裏千家12代）府立第一高女の囁託教授となる。明31・4・30まで。 府立第一高女35周年記念誌		

京	都	府	日	本
10・10 四条南側劇場、右団次・雁治郎ら一座開場。 日出 10・4			1・一 東京俳優組合結成。9世市川団十郎頭取。	
10・28 大黒座改造落成舞台開挙行。 日出 10・30			1・12 横浜フレイザー商会、エジソン発明の蓄音器輸入広告出す。鹿鳴館で実験。	
10・一 先斗町歌舞練場新建計画。日出 10・31			3・14 浮蓮節の祖とされる初代京山恭安斎、旅先尾道で没（天保末生）。	
11・16 祇園座で大沢善助・福田徳三郎発起の大音楽会開催。 ⁽¹⁰⁾ 日出 11・14、15			4・一 坂東寿三郎、京都で没、33歳。	
11・一 四条南側劇場、顔見世興行開催（昨年休演）。八百蔵・延三郎・徳三郎ら一座。 日出 11・5、8			7・6 東京音楽学校卒業式で初めて唱歌独唱。	
12・2 片山観世舎で茂山千作狂言盡開催。 日出 11・30			9・一 日本演芸協会結成（岡倉覚三・高田早苗・坪内逍遙ら発起）。	
12・16 祇園座、来年1月団十郎来演の「まねき」を、27日絵看板（鈴木芳国筆）を上げる。すでに世上人気沸騰。 日出 11・12、17、19、24、26、27			10・一 森鷗外「演劇改良論者の偏見に驚く」 「しがらみ草紙」に発表。	
12・一 本年度多額納税者最高額夷座々主杉本五兵衛、250円市税納税。 日出 12・25			10・一 中村宗十郎没、55歳。	
			11・一 歌舞伎座新築、21日開協。	
参 考			この年	
			▷ 囃子方初世藤倉芦船没、60歳。	
			▷ 田中正平博士、純正調オルガン作る。	
			▷ 合資会社山葉風琴製造所設立（25年には、オルガン78台、神戸外人商館により輸出。30年浜松に「日本楽器製造会社」設立）。	
			▷ 海軍々楽隊退職者池田辰五郎ら13名、東京市中音楽会とは別に、「東洋音楽会」結成。のち東京市中音楽会と合併し、「東洋市中音楽会」と改称。東京市中音楽会の創始者、加川力、リゼットは、別れて神戸で「神戸市中音楽会」創立。	
(1) 夷谷座々主杉本五兵衛が裏寺町光明寺内に新築。この建物は3階建、（1階27畳10・6・4、5・茶席）2階64、3階8・6・4。会合・芝居などの稽古に貸す。			▷ (7) 嵐甚平一座は大阪俳優で尾上玉之助・嵐美男・中村駒右衛門・尾上羽若・阪東光江・嵐松鶴ら16名。田舎廻りの興行をなし、亀岡では非常な評判で「亀岡座」と喧伝されていた。一同真影流剣法を心得立廻りは鋭く、本手を見せる。京角座興行は京都初舞台。「絵本太功記・源平布引滝・恋女房染分手綱・源平咲分」。	
(2) 幾代亭の桂藤兵衛が発起、賛同者集り毎月芸芸改良について協議。			(8) 京角座の所有主土橋松之助・妻・中村新助の3名が座を抵当に花遊軒（今の花遊小路にあった精進料理屋）樋口から借金。期限に返済不能で訴訟、8月14日入札、地主脇坂が落札、他になお道具類を抵当に債権者あり、これが無視されたので公売無効の訴訟提起、紛糾を重ねたが結局脇坂と他の地主らが1,100円で買うことに示談落着。座はそのまま使用。 日出 8・22、30、9・20	
(3) 壮士出身の角藤定憲は中江兆民らの支持により榊原清二郎・横田金馬ら十数名の一座を組織し、明21・12・3大阪新町座で、「日本改良演劇」と銘打って旗揚げした。普通いわれている壮士芝居書生芝居の嚆矢であり、新派演劇の端初である。日出新聞に「大いに見応えあり、壮士にしてよくもこのような演技ができるものだ」と評している。前狂言は角藤の「剛胆の書生」という小説を脚色したもの。			(9) 三吉艾、明19婦人唱歌会を起し講習会を開く。この日証書授与者73人。2カ年半で高等全科終了、該当者は高女の教師となる資格が与えられる。この資格者17人。	
(4) 中村時助（時藏門人）・嵐猪三郎・坂東花調（秀調の子）・中村貊之助（芝翫門人）・姉川仲十郎（仲藏門人）・尾上多喜三郎（菊五郎門人）・坂東利喜松（三津五郎門人）外題は「碁盤忠信・吉備大臣・雲霧双紙廓白波・水天宮・東土座一座献立」。東京の淡泊な芸風を自當てる興行計画。（5・1二の替り演目中所作事は5・9の東本願寺上棟式に因みその景況を仕組む）。			(10) アメリカ音楽家の声楽・器楽・和漢音楽にわたる多様なプログラム。青年社会の風紀向上事業資金を得るための催。入場料20・10・5銭。聴衆2,000人余。入場料収入約100円。	
(5) 今宮祭は5・5神幸祭、15遷幸祭。神輿三基・羽車一基が昨年の祭礼で喧嘩のため破壊、本年祭礼までに修繕のため4,080円余を氏子8千余戸から寄附、毎月50円乃至500円の寄附者があるが、月賦の人もある。				
(6) 借地料平常1坪1カ月5厘・納涼中1銭。（日出5・10）。				

京	都	府
1・5 申楽クラブ初能。 日出 1・1		6・4 笑福亭、出演の川上音二郎停止命令に拘らず出演したので同亭も営業禁止(10日 南側劇場で川上ら政談演説会開催、聴衆千人余)。 日出 6・5
1・5 観世舎初能。 同上		6・7 観世流大西鑑一郎稽古場を鳥丸御池に開設、観世舎で披露能開催。 日出 6・4
1・13 祇園座、団十郎一座興行初日 ⁽⁴⁾ 。28日打上(2月11日二の替り初日、24日千秋楽)。 日出 1・8、2・8、25		6・12 祇園座、養助ら一座初日。日出 6・7
1・一 1月興行もの(新京極、歌舞伎4・女歌舞伎1・講談4・落1・女義太夫2・新内1・俄2・吹寄1・雑芸7・他地域、歌舞伎3・講談5・落語1・身振狂言1・吹寄1・雑芸4)。 日出 1・1		6・一 祇園会に山鉦巡行見合せ意見 ⁽⁴⁾ 出る。(例年通り執行の決論)。 日出 6・15、7・6
1・一 四条南側劇場、江川千吉ら男女手品・鞠乗興行。 同上		7・1 夷谷座納涼芝居開場、市川由尾・中村仲吉・嵐島之助・佳久蔵・市川定丸ら女俳優一座。 日出 6・28
1・一 笑福亭で〇〇亭川上音二郎時世清談を語り、次いでoppakeペーを歌い、盛に流行。 日出 1・19		7・16 笑福亭、青柳捨二郎・曾呂利・露の五郎兵衛一座一週間慈善興行初日。実費差引1円15、少額に落胆。 日出 7・16
2・15 嚶々会月次会に二条川端ときはやで開催、狂言数番(茂山千作ら)・三題噺(山崎琴書・桂文弥の余興)。 日出 2・15		7・23 大黒座、嵐獅巖・三樹源之助一座に嵐冠十郎加り開場。(12・24まで打続)。 日出 7・12、20、25
2・一 電音館(寺町錦小路一筋目東入)で蓄音器の見せ物開業。 日出 2・27		7・一 新京極大西座に藤沢浅二郎(贅々亭小さん)俄に出演、中止の連発。終に脚本認可取消。 日出 7・24
2・一 西洋楽器師志田昇・才田伊三郎来住、各学校の依頼を受け廉価に修繕実施(従来は横浜へ輸送)。 日出 2・28		7・一 例年1日の川開きが10日に延び、祇園祭に当り四条辺非常に賑い、河原に可成り飲食店・遊戯場設備、人出に反し商売不景気。8月に入り多少冷気を催し、河原人出淋しくなる。 日出 7・12、8・1
3・3 祇園座坂東利喜松(団十郎一座に加入した)、坂東美之助の名跡を継ぎ披露興行開場。 日出 2・26		7・一 京角座、旧名道場劇場に回復。 ⁽⁵⁾ 日出 7・12
3・11~14 笑福亭、諸芸大寄開催。14日川上音二郎人情噺で出演。 日出 3・13		8・9 観世舎大西鑑一郎催主、囃子・袴能夜会開催。 日出 8・5
3・20 四条南側劇場、彦六座興行初日。		8・15 四条南側劇場、嵐橋三郎一座開場。 日出 8・14、15
3・20 大黒座、中村新駒ら一座開場。 日出 3・15		8・15 船鉦手斧始式挙行(千円余で新調)。 日出 8・16
3・29 堀内家9代齊宗完没、25歳。 京の茶家		9・1 道場劇場、坂東養助ら一座開場。 日出 8・26
3・30 笑福亭、川上音二郎・俄師・噺家・書生らで新趣向の滑稽演劇開場。 日出 3・30		9・19 四条北側劇場、中村芝翫・福助ら一座開場(守田勘弥も入京、勘弥の名で広告)10・2 演目差替。人気振わず、10・8急に打上、損金3,000円。 日出 9・20、25、10・1、9
4・8 疏水竣工式(9日)前夜祭開催 ⁽²⁾ 盛大。山鉦を飾り、疏水に浮べた船中祇園囃子など演奏。 日出 4・8		9・20 祇園館、キリスト教徒主催貧民救済慈善音楽会開催、聴衆3,000人。義捐金35円。 日出 9・23
4・8 笑福亭川上音二郎・三遊亭円馬・青柳捨三郎・若宮万治郎出場観客から質疑討論を行わせる「滑稽討論会」を開催、(5月四代目都々逸坊を加え一層人気を煽る)。 日出 4・9、5・8、11		9・27 福井座、長崎女新内市川文枝ら一座開場。 日出 9・27
4・13 祇園座、坂東養助一座開場。 日出 4・12		9・一 婦人唱歌会教師に高女の宇野筆子を委嘱、従来の尋常師範助教論坂井良志と二人。生徒数140人(内男子30人)。 日出 9・13
4・一 坂井座、我当・雀右衛門・正朝ら一座興行。 日出 4・18		10・1 夷谷座、仲吉・由尾・芝佐吉ら一座開場。(10・6一座の書出俳優、芝翫弟子芝佐吉没、座主盛大な葬儀挙行)。 日出 9・23、10・8
5・9 京角座、養助ら一座開場。日出 5・6		10・2 坂井座、時蔵・雀右衛門・橋三郎・仙昇・みんし・紫琴・若橋ら一座開場。(11・1雀右衛門・橋三郎抜け二の替り)。日出 9・21、10・30
5・23~27 峰山町不景気忘れに芸妓芝居開催。		
5・31 中竹座(大宮寺之内)で藤沢浅二郎・並川隆乗ら浮世演説興行。 ⁽³⁾ 日出 5・22、24、6・3		

京	都	府	日	本
10・12 広隆寺牛祭例年深更におよぶので帰途のため執行時間繰上。 日出 10・11			5・一 東京音楽学校新築。	
10・26 祇園館、東京春木座の男女混合芝居 ⁽⁶⁾ 興行初日。(11・28閉場)。 日出 10・4、26、11・28			5・一 中村雁治郎初めて上京、歌舞伎座と新富座に出演。	
11・8 新京極興行人・場主減税出願。 ⁽⁷⁾ 日出 11・9			8・2 明15の劇場取締規則改正。大小劇場に分け、大10カ所、小12カ所を限度とし認める。	
11・9 観世舎改築2年を経、記念能開催。 日出 11・2			8・21 警視庁、男女俳優混合演劇を不問に附すよう警察署に通達。	
12・8 四条南側劇場、顔見世初日、巖笑・多見之助・佐十郎・珊瑚郎ら一座。永く絶えていた手打式を行う(21日千秋楽)。 日出 12・5、6、9			9・一 「音楽雑誌」創刊(日本最初の音楽専門雑誌)。	
12・12 坂井座公売。 ⁽⁸⁾ 日出 11・28、12・14			この年	
12・一 観世流片山晋三没。			▷ オッペケペ節流行。	
12・一 夷谷座主杉本五兵衛・祇園座主芝池栄吉本年度多額納税者(芝池は祇園座団十郎興行の成果)。 日出 12・25				
12・31 祇園座、坂東養助一座開場(明24・1・17打上)。 日出 12・18、24、明24・1・16				
参 考				
<p>(1) 祇園座創立といわれる者高木文平は明18開場式に団十郎一座を招きたい意向だったが実現しなかった。団十郎自身は心動くものがあつた。23年高木と守田勘弥の談合により、トラブルの介在などあつたが、九代目団十郎の初下りが実現し、二の替りまで興行を見た。団十郎の演ずる「高時の」天狗舞が市中に持囃されるなどしたが、入場料が高いために客脚を鈍らし赤字を出した。一座には雁治郎・福助も加入、開場の12日は政次郎・小伝次・染五郎・升蔵らの子供芝居を見せ団十郎はフロックコート着用挨拶。(入場料棧敷上 4円25、中3,50、場上2,70、中2,00。他に上50、場35。)17日から毎夜300人を限り35銭で見せ、実費差引き療病院・盲啞院へ寄附。</p> <p>(2) 疏水落口附近の鴨川中島に式場および広大な夜会場(6間×70間)を設備、その近くに楽隊場(陸軍々楽隊)を設け、夜会場の南方に月鉦・鶏鉦・郭巨山・油天神山を飾り、疏水に多く船を浮べ日本楽・祇園囃子を奏する。天皇・皇族・大臣・関係官民約1,000人参集。また熊野神社では金剛社中の能狂言催す。</p> <p>(3) 先に川上音二郎が笑福亭で政談演説を寄席芸に扮飾して打って出たが、自由民権運動者たちが遊芸稼人の鑑札をとってこのやり方を行うことが明18頃から常套のようになった。元祖は明15土佐の坂崎崎(馬鹿林鈍翁)と称せられる。この中で</p>				
			<p>ノ川上音二郎を中心の一集団だけが演劇への道を深めて行く。中竹座の演題は藤沢「滑稽浮世艶話」・並川「諷刺悲壮時事講談」で前座に長持屋二蝶・成田屋三升出席、幾代亭の文屋・新吾も加わる。初日の入場者200人・2日目300人・並川臨検警官の注意を受けたが大喝采を博す。2日間日延べ。</p> <p>(4) 例年通り執行のことは氏子総代会で決つたが、米価騰貴し、飢饉に陥る者も出る折柄、無用の経費節約すべしとの意見。結局景気直しに実施と決定。</p> <p>(5) 道場劇場は由来古く、維新後所有者転々と変わったが、明17大阪「角の芝居」座主大清の手に移つた時それに因み「京角座」と改称、数年後また座主が脇坂熊蔵に移るに及んで前名との因縁が断たれたので旧名に復することにした。 日出 明23・7・12</p> <p>(6) 警視總監は男女混合芝居を黙許。祇園館の興行願届出に際し、警察では許否決し難く、府へ伺い結局許可、この興行人気悪く、太夫元奥田嘉一郎・名代人佐橋富三郎が売上拐帯逃亡し、紛糾生じ、休業・開場を繰返し、11・28閉場した。</p> <p>(7) これまで日税上等棧敷4枚・木戸15人分を2枚・7人分に減額要望。</p> <p>(8) 坂井座経営困難座主西尾為次郎ら藤原忠兵衛(鳥丸五条下、大忠事)に対し借財の債務不履行により11・26公売、幽霊入札のため再入札。森弁太郎(古門前大和路東)が11,500円で落札。</p>	

京	都	府
1・18 金剛流申楽クラブ始会。 日出 1・15		6・15 葵祭ロシア皇太子遭難のため1カ月延期執行。 日出 5・14
1・19 (～10日間)四条北座、越路太夫一座興行(大入り31日打上となる)。 日出 1・18、29		6・18 中竹座(大宮通寺之内西入、明20頃建設)出火半焼。 日出 6・19
1・26 観世舎月次能始会。 日出 1・29		6・一 26年アメリカ万国博に日本古楽器を京都糸物商組合で出品するため事務所を小川通樺木町越野長兵衛方に設置。費用2,000円。 日出 6・9
1・一 社家長屋町の土地を買収4月上七軒歌舞練場新築着工の計画(資金は花代積立・寄附金)。 日出 1・28		7・1 上賀茂神社御戸代能再興。 横井春野・「能楽全史」
1・一 梅若実、片山晋三の追悼能会で近く来京、「道成寺」を舞う予定。 日出 1・30		7・5 新京極三条下にパノラマ館新築開業、入場料5銭、小人半額、この日夕6時～11時まで入場者965人。絵は野村芳国筆。(9月閉館)。 日出 7・3、7、9・23
1・一 坂井座、五大州演芸会 ⁽¹⁾ 。川上音二郎出演。(坂井座2・13日から芸人芝居興行)。 日出 1・1、2・10		7・14 岩神座、市川市蔵・坂東太郎一座祇園館打上後引越興行開場。(7・21打上8・1祇園館へ出演)。 日出 7・14、23
2・1 道場劇場、東京俳優山村内匠(鏡助と並ぶ評判)一座開場。 日出 1・29		7・21 常盤座、右団次・橘三郎・寿三郎・若橋ら一座納涼芝居開場。(8・13この替り初日。15日から人気湧き19日満員)。 日出 7・16～18、21、8・13
2・1 夷谷座、市川由尾・中村仲吉ら一座開場。(3日打続)。 日出 1・22、3・1		8・1 道場劇場、竹本津大夫ら一座浄瑠璃開場。 日出 7・26
2・10 福井座、東京女俳優坂東文子・嵐小巖・名古屋から市川鯉京ら加入開場。夷谷座と張合う。(3月打続)。 日出 2・7、3・1		8・9 四条南側劇場、イタリア人シュルバマンの奇術開場。 日出 8・8
2・17 四条北側劇場、時藏・雀右衛門・仙昇・関十郎・若橋・荒太郎ら一座開場・好評。 日出 2・4、10、15		8・15 四条北側劇場、越路太夫一座浄瑠璃開場。 日出 8・13
3・1 先月坂井座の芸人芝居の連中常席へ復帰。 ⁽²⁾ 日出 3・1		8・16 夕方から暴風雨大文字中止。その煽りで興行ものかなりの賑。 日出 8・18
3・一 坂井座公売、債権者丸一今井某落札、「常盤座」と改称。改称披露興行、北座興行の時藏ら一座で29日開場。4・10急に千秋楽。 日出 3・6、4・11		9・1 四条北側劇場、泉祐三郎一座開場(3～4年ぶりの興行。(10日打上のところ10日間日延。更に5日間日延、26日打上、日出9・3、12・27)。
4・11～13 先斗町女紅場舞台を大きく改修有料大温習会開催(従来無料)。 日出 4・16		9・24～28 祇園館、鏡助一座慈善興行(竹村・安藤・清水夫人ら有志発起、鏡助一座給金なしの出演。20銭券3,000、10銭券7,000を配布剰余金は婦人慈善会へ寄附、 ⁽⁵⁾ 外題「桃山譚」。 日出 9・20、26
4・12 淀御旅所で神能再興、第1回観世舎奉仕。 日出 4・2		10・1 素人若手浄瑠璃連東京神田市場亭の招きで東京で興行。 日出 9・29
4・16 武者小路千家、7代以心齋宗守没、62歳。 京の茶家		10・12 太秦牛祭例年通り夕7時始り8時終る予定、仕舞・狂言奉納。 日出 10・11
4・19 歌舞伎俳優中村宗十郎義弟呉服悉皆商早川平兵衛還暦祝に高官・三都有名の芸能人200余人「常盤」(河原町三条)に招待、自ら「安宅」を謡って序開き、各自蘊奥披露。 日出 4・21		11・一 新京極大虎座俄、琴昇・琴竜講談は、美濃震災実況を演じ大変人気、各興行席申合せ義捐金拠出(震災の間接影響で興行成績半減)。 日出 11・6、14
4・24、25 大徳寺塔頭竜光院・真珠庵・聚光院・孤蓬庵で大茶会 ⁽³⁾ 開催。 日出 4・26		11・一 皇太后両本願寺行啓の際能楽供覧、この程能楽師・狂言師・衣裳方にいたるまで一人1円づつ下賜。 日出 11・8
5・4 常盤座、市川鯉太郎・三樹源五郎・嵐若橋ら一座開場。顕如上人300年忌を当込み「石山軍記」上演。 日出 5・3、5		
5・6 四条北側劇場、角藤定憲一座開場。「未来出来事国事裁判」。 日出 5・5		
5・12 ロシア皇太子遭難 ⁽⁴⁾ のため新京極興行休業。 日出 5・17		
5・一 宝生九郎初めて来京。22日三井寺奉納能。29日金剛舞台で舞う。 能(観世会館)		

参	考	日	本
(1) 広告に、日本人川上音二郎丈を冒頭に英・米・仏・印・アフリカの名出る。芝居手踊落語など紅粉を塗り、日本語をもって演じとある。また日出2・1の新京極興行「笑福亭」の記事に川上・青柳・文団治・米団治の落語、フランス人アーサン加わるとある、坂井座の方は13日から文団治・正玉・馬鹿八・米団治・藤兵衛・木鶴・柏枝・文字助・柳三・米喬・文如・竹我・東寺・三升・せちんべら俄師落語家の芸人芝居興行(演目は全て歌舞伎もの)を行った。 日出 2・10		1・一 議会で東京音楽学校存廃論争。	
(2) 笑福亭文団治・大虎座正玉・馬鹿八・幾代席藤兵衛・竹我。 日出 3・1		2・5 川上一座探「卯の日座」で書生芝居旗揚。一週間で打上(6・20東京中村座で興行「板垣伯遭難実記・経国美談」上演。続いて7月・9月に興行)。	
(3) 真珠庵茶室庭玉軒の修復を檀徒山本行正が肝煎りで行った明27・7以来、毎年春秋寄進者招待の茶会が催されて来たのであるが、本年は住職望月宗廉師・幹事山田宗立が三井ら紳商に諮り両日開催するのを機に平井利右衛門が聚光院利休庵に、山中小兵衛が竜光院密庵席に、岡本勘助が孤蓬庵山雲席に、望月允武が忘筌席に釜をかけた。会衆200余茶事満喫。 日出 4・26		4・2 総理大臣官邸で仮装舞踏会。	
(4) 9日夕ロシア皇太子入京、河原町三条上「常盤ホテル」泊、11日三井寺・唐崎等巡覧、県庁へ臨場。午後1時半帰京の途警備巡查津田三蔵抜刀して人力車上の皇太子を襲う。微傷を受ける。 日出 5・12		9・一 新内鶴賀五世家元、若狭太夫没、(初世若狭掾以来の血統絶える)。	
(5) 実費427円15差引剰余500円25を寄附。 日出 10・11		11・5 東京吾妻座、伊井蓉峰ら済美館と称する男女合同改良演劇開場。(座名も済美館と名附ける)。	
(6) 女紅場役員会では10円株350株、3,500円を募り、3,100円で祇園館を買取り、残り400円で改修、周囲に立派な柵を設け面目一新。29日穂北孝次・前田平三郎2人の名儀に登記完了、今後この2人で運営。来年2月菊五郎を招く計画。 日出 明25・1・1		この年 ▷ 東京、女義太夫盛ん。 ▷ ハーモニカ輸入(国産製作は大2)。 ▷ 書生間に、この年尺八大流行(翌年には麿って横笛流行)。	
11・15 観世流脇師岡治郎右衛門別会能開催(林喜右衛門・大江信之助・浅井織之助・生一佐兵衛・大西鑑一郎出演)。 日出 10・23			
11・8、9 三味線名人鶴沢友次郎発起美濃震災慈善素人浄瑠璃会を四条北側劇場で開催。 日出 11・8			
11・27 常盤座、右団次・福助・雁治郎ら一座の顔見世興行開場。〔初日以来大入り、12月17日まで日延。翌年(雁治郎・福助抜け)1月1日二の替り開場。 日出 11・19、12・4、14、25			
12・8 祇園館、山村内匠・実川小延童ら一座開場。 日出 12・9			
12・一 高木文平所有の祇園館、祇園新地女紅場役員組合に3,100円で譲渡。 ⁽⁶⁾ 日出 12・23			

京	都	府
1・1 伏見大黒座新築開場。 ⁽¹⁾ 日出 1・1		
1・15 四条南側劇場泉祐三郎の今様能狂言開場(大入、1日延べして25日千秋楽。2・1～28北側劇場に移り興行、続いて3・1～13、3・17～23岩神座で興行。3・25～4・3伏見大黒座興行。熱狂的なファン(の懇望による)。日出 1・17、26、30、2・28、3・12、15、22、4・5		
1・24～31 四条北側劇場、越路太夫一座浄瑠璃興行。日出 1・19、30		
1・19(1・1～) 常盤座、右団次一座二の替り打上げ。2・1右団次抜け璃寛・橋三郎ら一座開場。日出 1・30		
2・1 幾代亭、ヘラヘラの元祖万橋出演、駅より乗込む、桂藤兵衛ら一同旗を揚げ出迎。日出 2・2		
2・1 糺能再興。 ⁽²⁾ 日出 2・3		
3・7 四条南側劇場、市川荒太郎・中村政之助・浅尾関十郎ら一座開場、不入りのため、17日打上げ。日出 3・2、19		
3・8 常盤座、松旭齋天一の西洋手品(東京で天覧)開場(非常の大入り、9日打上)。日出 3・4、11、12		
3・23 尺八名人鈴木孝道、共楽館で音曲会開催。(来会者約50人、盲啞院へ収入寄附、指南所を乗願寺内(寺町弘光寺下)に設け、鈴木社中を組織。日出 3・25		
3・24 内務省社寺局より府全管下の官幣社式内社で田楽など祭式の遣るもを調査、報告を申達、府は各郡へ伝達。日出 3・25		
4・14 道場劇場、市川荒太郎・尾上多見太郎ら一座開場。(芸題揃いとなつてから日出連載「月と梅」は大人気)。日出 4・9、26		
4・14 南座、角藤定憲一座開場「雪中梅・花間鶯」(5・1から大津大黒座興行)。日出 4・12、13、30		
4・22 島原太夫道中例年の21日雨天のため22日挙行、4時頃見物人約1,000人、その後壬生狂言帰りで人山の見物人。日出 4・14、24		
5・1 申楽クラブ規約改正。 ⁽³⁾ 日出 5・14		
5・15 講談師田村琴竜(琴書と双壁)洗湯で頓死。日出 5・17		
5・22 四条北側劇場、左団治一座開場。(6・8打上)。日出 5・22、6・9		
5・23 祇園新地練曲復興。日出 5・6		
5・29 宝生九郎金剛流別会能に「三山」(宝生流の重い秘伝もの)を演能。日出 4・20		
6・12 常盤座、雁治郎・福助ら一座開場(6・29千秋楽。その後修繕)。日出 6・1、5、9、14、20、28、7・29		
6・12 観世舎能会、浅井織之丞200年来中絶の「草紙洗小町」段拍子を開曲(超満員、貴紳連観能)。日出 6・14		
6・4 綴喜郡美豆村氏神山宮正遷宮に茂山千五郎ら出張、狂言・仕舞奉納。日出 6・2		
6・1 近時謡・能楽盛行。 ⁽⁴⁾ 日出 6・15		
7・2 琴書・藤兵衛・米団治・中村仲吉ら芸界挙って共楽館で盲啞院寄附の慈善諸芸会開催。 ⁽⁵⁾ 入場料10銭。400人余入場。日出 6・26		
7・5 四条南側劇場、川上音二郎開場。 ⁽⁶⁾ 日出 7・3		
7・7 観世舎別会能。(野間亀之助主催、家元清廉来京出演、「砧」を演能、野間は「望月」開曲。日出 6・16		
7・10 金剛月次会開催。この会を博愛社(日本赤十字社京都支部の有志組織)の例会に充当。日出 7・8		
8・8 祇園館、右団次・福助一座開場。(女紅場が買ってから初興行ゆえ初日開場式挙行)。日出 7・31、8・4		
8・13 四条北側劇場、越路一座開場(24日千秋楽)。日出 8・11、8・26		
8・22 道場劇場訴訟起り開場の中途閉場。日出 9・1		
8・26 観世宗家清廉弟寿、片山家に養子挙式。(9月3日観世舎で祝賀能開催)。日出 8・26		
8・1 紙腔琴(東京十字屋で発明)を村上勘兵衛で発売。日出 8・4		
9・1 四条北側劇場、泉祐三郎今様能狂言 ⁽⁷⁾ 開場(9・29千秋楽)。日出 8・1、9・29		
9・1 9月半ばも過ぎ秋の萌し見え新京極の人気下り坂、ただ幾代亭・笑福亭のみいつも大賑。日出 9・21		
10・7 四条北側劇場、時蔵ら一座開場(客脚低潮、23日前狂言外題替昼夜通し8銭の安値とする。28日打上)。日出 10・5、10・28、30		
10・15 常盤座、川上一座(川上抜ける、実際は藤沢一座)開場。(人気よく11・1～15続いて御礼興行。この一座今では技倆も進歩、立派に成長)。日出 10・13、11・1、8		
10・25 三遊亭円朝、松方正義に随伴来京の機に共楽館で講筵開催、山岡鉄舟一代記を演じ収入は鉄洲寺伽藍建築費に寄附。日出 10・26		
10・1 新京極大分閑夜。常盤座・道場劇場閉場。パノラマ館改築中。日出 10・1		
10・1 道場劇場、坂井座と改称。 ⁽⁸⁾ 11・7、時蔵・市十郎・仙昇・荒五郎・多見之助らで開場。23日千秋楽。日出 10・14		
11・1～18 祇園館、今紫 ⁽⁹⁾ 一座興行、19日から3日間慈善興行。日出 10・14、11・6、17		
11・3 福知山朝暉神社天長節に当り催能。日出 11・3		
11・10 一六座(大扉座を改称)東京・大阪朝日新聞の「箱谷蘭香」(舞妓お鶴)の俄開場。日出 11・9、10、13		
12・1 坂井座、時蔵・多見之助抜け若手新加入で開場。18日千秋楽。日出 11・30、12・20		
12・4 四条南側劇場、琥珀郎・吉三郎・正朝らで顔見世開場、19日千秋楽。日出 12・4、20		
12・28～明治26・1、8 船井郡各小学校冬期休暇中高等女子師範卒業亀岡ツギを聘し郡役所で唱歌練習会開催。日出 12・23		

参	考	日	本
(1) 伏見京町六丁目、植村治助が同地に新築、能舞台に模した舞台造りで美しい。出演一座は八百蔵・若松・源五郎・家若・百々之助・多見太郎ら、八百蔵大阪朝日座とかけ持、多度津興行の市川市十郎6日から出勤八百蔵と入れ替る。日出 1・3		1・14	川上音二郎一座、鳥越座興行。3月市村座・4月蔦座(横浜)・5月市村座・7月、南座(京都)・8月、浪花座(大阪)・10月常盤座(京都)・11月鳥越座・12月蔦座(横浜)興行。
(2) 糺能は維新後中絶、竹村藤兵衛・田中喜右衛門らに計り移神社北元社務所を式舞台とし、金剛・観世隔年受持ち毎年春季催能。日出 2・3		2・1	河竹黙阿弥、喜寿を迎え劇界隠退。
(3) 金剛能楽堂の修繕を加え、規約は下の通りとする。隔月第2日曜に能会開催、年会費の会員募集、通常会員(4人席)1円20銭・甲部特別会員3畳席5円・乙部4円・当日限り1人15銭、番組は前月告知。日出 5・14		3・1	菊五郎・左団次大阪に下り角座、浪花座で競演。
(4) 観世・金剛では毎月能会・臨時能数回催し、法楽能狂言頗繁、諸方の謡講年中空日のない有様。日出 6・15		4・1	赤坂演技座、浅草沢村座・本郷根津藍染座など、中小劇場次々開場。
(5) 出演者・演題は下記のようなことであった。この種の催は最初のこと。(米喬「夕立」・柳三「須磨名所」・柏枝「目鏡盗人」・馬勢「一休譚」・琴馬「大高源吾」・夕顔常盤津「お園六三」・小文吾「我忘れ」・好一「東洋手品」・万寿「職人の青楼行」・梅枝「諸芸穴探し」・花山文「掛取万才」・梅里・八重吉浄瑠璃「妻八の鰻谷」・円遊「地獄廻り」・円橋落語「かぼちゃ」・吟蝶「三味線曲引」・文如「芸廻し」・ジョン丸「西洋手品」・琴書「井上徳三郎伝」・米団治「鉄漿つけならん」・松朝「山寺」・藤兵衛「高砂屋」・竜門「鶴の曲」・万橋「紀州鍛冶」・南光「御座参り」・明学「琵琶尺八笛の曲引」・正午～7時。日出 6・26		7・9	手品師3世柳川一蝶斎、鍋島邸で天覧演芸。
(6) 6月初旬に川上一座を招くことが決り、川上初め岩田庄之助・金泉丑太郎・藤沢浅二郎・木村周平・中川幸二郎他20名の看板あがる。川上実父福岡で死亡葬儀のため、7日～11日休業、12日再開、28日～30日の3日間慈善興行を行った。芸題は「阿蘇桜霞廻限本・監獄写真鑑」、大変な人気で、矢ツ車(力士)・各新聞社・芸人から幕や幟が贈られ、東京方面からも贈られた。川上が東京に出てから初下りであった。藤沢浅二郎は京都人で縁故深く「藤見連」という後援団体が作られた。		7・1	市村座、山口定雄旗上、伊井・高田ら加入。
(7) 滞京中の観世清廉も野間亀之助らと観る、祐三郎、妻お咲その娘たちの子方の芸達者には感心したが祐三郎の狂言はまるで落語だと批判。しかし、一般では相変わらず人気高潮。日出 9・3、8		8・1	赤坂溜池福祿座開場。
(8) 元三条下ル坂井座持主西尾が道場を買受け修繕、坂井座と名附く。日出 10・14		9・1	青年俳優練習のため、市川家門下の俳優ら赤坂稽古座(元福祿座)で開演。大劇場附俳優が小芝居に出演するのは組合規約に違反と反対論多く、新聞攻撃も激烈、ために団十郎頭取辞任。
(9) 今紫は京都生れ縮緬仲買商の実家倒産して新吉原金瓶楼の花魁となり、後舞台に転身。		11・1	猿若町の市村座下谷二長町に移転、左団次座頭で開場。(明26・2焼失)。
		12・1	5世富士松加賀太夫没、38歳。
		12・1	大阪角座、男女合同劇興行。
		12・1	能楽喜多会結成。
		12・1	能楽観世流舞台新築。
		12・1	大阪角座、大谷馬十と東京高橋屋今紫との合同劇興行(大阪における男女合同劇の最初)。
		この年	
		▷	橘智定(初代旭翁)筑紫琵琶を筑前琵琶と改称。
		▷	本所相生町寿座・芝森元町森元・高砂・開盛の三座改築期限切れ廃座。

京	都	府
1・3 四条北座、泉祐三郎一座開場 ⁽¹⁾ (2・11~3・15岩神座興行)。 日出 1・3、2・10、3・14		構作 (跡地には貸家数軒建築。座の檜は千本今出川、千代野屋席が譲り受け、千本北座となる)。(新築成り10・18開場。中村仙昇・実川小延童・嵐佐十郎ら一座興行)。 日出 6・16、17、10・17
1・22 金剛能会申楽クラブで開催。 日出 1・17		7・9 共楽館で第2回芸協会演芸会開催。 日出 7・7
1・一 宮津の「万年劇場」に壮士芝居興行。 日出 1・25		7・一 新京極パノラマ館跡に大劇場建築計画(明44京都座建設まで実現せず)。 日出 7・6
1・28、29 観世舎、片山寿、九郎三郎改名披露能開催。 日出 1・25		7・一 常盤座休業修繕。 日出 6・29
2・1 常盤座、巖笑・雁治郎ら一座 ⁽²⁾ 開場(若手の腕競べで近頃はない好人気。23日千秋楽)。 日出 2・1、7、23		7・一 祇園新地練物再興(練り歩きせず、円山公園角力場に10間×15間の舞台を設け、上演)。 日出 7・11
2・1 南座、中村新十郎、市川佐代治・嵐佳久之助・嵐笑鶴・市川妻蔵ら一座開場。 ⁽³⁾ 日出 2・3		8・5 伏見に福富座開場。三樹源五郎・中村国太郎一座出演。 日出 8・6
3・4 南座、阿波浄瑠璃竹本浪大夫一座開場。(なかなか人気。21日打上げ)。 日出 3・15		8・13 祇園館、琉球俳優一座開場。 ⁽¹¹⁾ (22日打上)。 日出 8・6、24
3・6 四条北側劇場、文楽越路大夫一座開場。 日出 6・5		8・15 南座、越路大夫一座開場。 日出 8・13
3・10 千本座、東京壮士改良演劇「粹交會」開場(人気をとり、20日打上げ後、引続き裁判・監獄の情態を仕組んだ自作脚本上演)。 日出 3・9、22		8・16 金閣寺不動明王開扉に茂山千五郎ら狂言奉納。 日出 8・16
3・一 大黒座、旭座と改名。 日出 3・1		9・2 平安神宮大極殿地鎮祭執行。3日から一週間各町・各団体それぞれ衣裳を凝らし屋台を引き出すなどして市中を練り踊り、全市渦巻き沸騰。 ⁽¹²⁾ 日出 9・2、3、5、6、7、9、12
4・7 都踊開催。 ⁽⁴⁾ 本日から3週間。(出演組数は例年4番だったのを5番とする)。 日出 4・2		9・3 大江信之助、又三郎と改名、観世舎で披露能楽開催。 日出 8・25
4・20 平安奠都記念祭・博覧会聯合府県委員会府庁で開会。 日出 4・21		9・17 金剛申楽クラブ第3回能会。 日出 9・6
4・22 祇園館で慈善音楽会開催。 ⁽⁵⁾ 日出 4・18、22		9・17 観世舎能組。大西鑑一郎催主。 日出 9・15
4・26 奠都記念内国博覧会に際し、審査総長九鬼隆一が演芸会開催のことを強調。 ⁽⁶⁾ 日出 4・28		9・19 常盤座、藤沢・静間・金泉の川上一座開場(芸題替して、10・28まで興行)。 日出 9・17、10・26
5・1 笑福亭、立花家橘之助出演。美声で清元・うかれ節を演じ大人気、6月半ばまで続演。 日出 5・1、6・1		9・21、22 福知山町佐藤勤兵衛ら数名発起、金町字中に大劇場新築開場式挙行。 日出 9・29
5・11 常盤座、東京下り坂東彦十郎・鶴之助・三津三ら一座 ⁽⁷⁾ 開場(6月は坂井座に出動)。 日出 4・30、5・28		10・17 下鴨神社札能再興、橋殿で奉納。片山九郎三郎・大江又三郎・大西鑑一郎ら観世流奉仕。 日出 10・15、能楽 明35・7
5・19 宝生九郎来京、観世舎で催能、九郎「杜若大沢の舞」を舞う。 日出 5・14		10・17 舞鶴町氏神祭執行。本年は屋台・太鼓櫓を引出す余興は中止。 日出 10・12
5・21 近松門左衛門の末葉楳杜新助(三条大橋二丁目)発起、本能寺境内に建碑法会挙行。 日出 5・10		10・23、24 八坂神社神楽所落成、兩日観世・金剛両流能楽奉能(落成報告祭は17日挙行)。 日出 9・14
5・28 申楽クラブ第1回能会(6・11第2回能会)。 日出 5・25、6・8		10・23 亀岡町氏神祭に翁式奉納の例長く中絶、今年同地共楽会員発起し御旅所で執行。 日出 10・20
6・4 常盤座、雁治郎ら一座開場(24日千秋楽)。 日出 6・1、25		11・3 南座、菊五郎・菊之助・栄之助・家橋・秀調ら一座開場。大極殿勧進口上演述。 ⁽¹³⁾ (18日打上)。 日出 11・3、17
6・18 南座、武知元良一座壮士芝居開場 ⁽⁸⁾ (25日雁治郎ら観劇)。 日出 6・17、25		11・26 常盤座、顔見世興行初日、雁治郎・右団次・福助・我童・巖笑ら出動。 日出 11・28
6・25 芸芸協会を設置、第1回演芸会 ⁽⁹⁾ を共楽館で開催。 日出 6・21		11・10 祇園館、坂東襄助一座顔見世興行開場。 日出 11・1、2
6・25 大徳寺塔頭真珠庵で観阿弥祭を修し、囃子・狂言・独吟・仕舞を行う。 日出 6・25		12・22~24 東京初下りの三樹大吉・中村米蔵・片岡鶴助ら一座感化院のための慈善興行。 日出 12・21
6・一 四条北座、廃座取毀ちに決り。 ⁽¹⁰⁾ 板囲		

京	都	府	日	本
12・一 旭座(元大黒座)年末芝居中止して入口を舞台正面北側に改造。 日出 11・22			1・1	川上音二郎、鳥越座の初日を控へ、俄に神戸出帆渡仏。
12・一 木津に公会堂(9間×5間、2階建)新築落成。 日出 10・31			1・14	佐橋富三郎(明治初期、京都で活躍した作者)没(このとき春木屋々附)。
12・一 年末の新京極、相かわらず、夷谷座由尾ら一座女芝居・幾代席藤兵衛、大虎座馬鹿八・正玉ら馴染が出動。 日出 11・29			1・22	阿竹黙阿弥没、78歳。
			1・22	鳥越座(元中村座)焼失(再興することなく江戸三座随一だった中村座の檜も滅亡)。
			2・一	第4回内国勧業博覧会、京都で平安奠都1100年祭を機に、開催を貴族院で可決。 日出 2・28
			4・19	記念祭協賛会発起人会東京星ヶ岡茶寮で開催、会長に近衛篤鷹公、副会長に佐野常民子を選挙。 日出 4・21
			4・一	雅楽協会設立。
			6・25~27	東京歌舞伎座団十郎ら一座慈善興行。団十郎平安奠都祭のため幕間に勧進帖献上。(団十郎延暦時代の装束着用、その時用うる綴帖は鈴木景年下絵「大極殿の図」川島甚兵衛製作)。 日出 6・13
			6・29	東京音楽学校国費節減のため、高等師範附属音楽学校となる。 日出 7・1、日本の洋楽百年史
			8・12	文部省「祝祭日歌詞並楽譜」公布。文部省告示3号、新聞集成
			8・18	大阪浪華座に出演中の片岡我童前狂言と切の幕間に大極殿勧進帖を献上。 日出 8・20
			9・一	大阪、人形浄瑠璃劇場彦六座閉場。
			11・1	東京明治座開場式(団十郎・左団次・福助・権十郎出動)。
参 考				
<p>(1) 近来稀な人気を博し、2月上旬まで打続け、多分数日大阪神戸方面へ招きによって出向き(日出に2月4日までの番組掲載、9日附臨時休業の広告掲出)岩神座に帰て2・11~3・15、中2日休み、興行した。</p> <p>(2) 「開花梅浪華美談、八幕・菅原伝授手習鑑・廓文章」巖笑・珊瑚郎・多見之助・成太郎・七賀之助・我蔵・成十郎・賀之助・若滝・雁治郎。</p> <p>(3) 南座「糸桜木町育、十二冊・日向島非人眼明景清」。</p> <p>(4) 近年稀な大入り、見物人平均2,000人、茶房400、50人10銭で見せる。 日出 4・19</p> <p>(5) 番組の主なもの・尺八鈴木孝道・廿五絃紀伊馬岸・八雲琴下間杜中・声楽ウインライト嬢・ピアノスタンホード夫人・ピアノ大橋純二郎・他同志社女学校生徒・日曜学校生徒の合唱・ヴァイオリン加賀山鐘吉尺八本手岡田芦山合奏明清楽・落語桂藤兵衛など。 大阪音楽文化史資料</p> <p>(6) 九鬼の趣意、「京都は古来歌舞の勝地、奠都以来隋唐の舞楽を変化して面目を開き、足利・豊臣の時に能楽の成立したのもこの地、演芸の勢が大坂・東京に移ったのちも京都の音楽舞伎は依然特種の体を失わなかった。今回の盛挙には近世演芸の外特に雅楽能楽等の大会を催し、且旧来諸曲の外今から準備して謡曲を作りこの盛典に添えるならば京都の演芸は一層の発達をなし得られるだろう」。 日出 4・28</p> <p>(7) 「蝶千鳥曾我実記・吃又平・野晒語助・愛知の地震」大いに受ける。 日出 4・30、5・13</p> <p>(8) 武知元良・桃木吉之助・新村道男・黒田・荒木清・河合半之助・榎村菊次郎・野崎三郎ら「長崎奇談重罪判事・明治勧進帖」諷刺劇を上演、演技達者で評判よく、12日頃二の替り、7月10日頃まで続演。 日出 6・21、27</p> <p>(9) 各般芸芸の改良進歩を計る目的、会員組織、1ヶ月15銭の会費、毎月例会開催、25日の例会番組は講談・落語・音曲・舞・曲芸・浄瑠璃・新内・滑稽演劇など。 日出 6・21</p>				
			ノ(10)	伊原・「歌舞伎年表」には5月に廃止とある。廃絶の公的手続が5月完了したものと想像される。
			(11)	俳優阿波根真寛・真栄・平亀ら17人、音曲師仲木正成・真栄田宗俊・新垣加那・與儀幸雄。
			(12)	余興の一週間に各町から引出した屋台は807。踊子数77,232人を数える。 日出 9・12
			(13)	団十郎と我当が東京・大阪で行ったのに菊五郎の南座出動におよんで、大極殿は寄附金もあましまとまった今時宜にそわぬ嫌もあるが、人気にも差支えるので、衣冠を着けて登場、口上は人に述べさせることにした。 日出 11・3

京	都	府
<p>1・1 南座、武知元良武一座開場。 日出 26・12、16</p> <p>1・9 祇園館、芸題替。8～12日慈善興行、上り高感化保護院へ寄附。日出 1・10、11</p> <p>1・一 夷谷座（由尾・仲吉ら一座）・福井座（梅昇・梅曉ら一座）の女芝居毎日毎夜大入り。打上げ20日の予定を25日まで日延（夷谷座非常な大入りであったので稲荷神社へ鳥居・額奉納。日出 1・1、10、26</p> <p>2・1 南座、文楽越路太夫一座開場（7日打上）。日出 2・1、9</p> <p>2・3 旭座、改築落成また富栄座と改称。⁽¹⁾東京下り中村歌三郎・市川福升ら一座開場。日出 2・1、15</p> <p>2・9 常盤座、雁治郎・福助・巖笑ら一座開場。初日から大入り。日出 2・4、9</p> <p>2・11 南座、彦六座引越興行初日。日出 2・11</p> <p>2・15 千本座、木村周平・静間小次郎ら、川上一座から分離して組織した一座で開場。日出 2・15</p> <p>3・4 常盤座、市川糸八一座⁽²⁾開場（19日千秋楽、24日二の替り開場）。日出 3・1、20</p> <p>3・17 坂井座、三友会（川上一座から分れた木村周平・静間小次郎・金泉丑太郎が組織）の出演で開場。日出 3・16、17</p> <p>3・18 南座、泉祐三郎一座開場（4・16打上。4・5～11岩神座興行）。日出 3・11、17、4・6、21</p> <p>3・25 観世舎（柳馬場二条上）は舞台・座席を改造、「京都能楽堂」と改称、開堂式挙行。日出 3・17</p> <p>3・一 祇園新地拡張整備。⁽³⁾日出 3・15</p> <p>3・一 初代煤茂都扇性没、69歳。</p> <p>4・7～27 都踊開催（本年また踊の組を一組増加六番とする。歌舞練場修繕、抹茶席待合新築。日出 3・15</p> <p>4・14 府立高女卒業式、⁽⁴⁾唱歌「とつ国人」で始まり、賞品授与に伴い「春さく桜」、祝辞答辞のちピアノ三人連弾、「別れ」「送別」の唱歌で閉式。日出 4・15</p> <p>4・21～25 坂井座、諸芸懇親会開催。幾代・笑福・大虎座の落語・俄連中に坂井座打上げの三友会も参加。（5・1三友会一座で開場）。日出 4・21、5・1</p> <p>4・21～5・10 壬生狂言開催、新作を加え好評、毎日大入り。⁽⁵⁾日出 4・26、5・2</p> <p>5・1 山崎琴書、新京極錦上ルに講談席新築、諸芸大会で開場式挙行。日出 4・26</p> <p>5・6 南座、我当一座開場（24日千秋楽）。日出 5・5、8、24</p> <p>5・9～12 上七軒歌舞練場新築落成、温習会開催。日出 4・29</p> <p>5・14 千本座、改造落成式挙行15日から中村小延童・政之助一座開場。日出 5・16</p>	<p>5・19、20 京都能楽堂、梅若六郎一家・観世清廉来京を機に大演能、来観者堂に溢れる。21日西本願寺降誕会奉納能に梅若美出演。日出 5・13、15、22</p> <p>5・12～6、13 稲畑勝太郎東京明治座左団治一座上演の「織姫褌子」のために緞帳贈る。⁽⁷⁾稲畑勝太郎翁、高梨光司・伊原、歌舞伎年表7巻</p> <p>5・一 各遊廓歌舞練場新築計画。⁽⁶⁾日出 5・3</p> <p>6・1 千本北座、三友会一座開場。日出 5・30</p> <p>6・1 南座、今枝恒吉一座開場。（20日芸題替、7・3打上）。日出 6・8、21、7・5</p> <p>6・3～24 常盤座、雁治郎・福助・我童一座興行。日出 5・27、6・24</p> <p>6・26～30 坂井座、松林伯円一派出演、大阪の音楽隊を呼び伴奏。日出 6・26、27</p> <p>7・1 平安神宮立柱式大文字点火。日出 7・3</p> <p>7・17 常盤座、実川延二郎子供芝居開場（8・4千秋楽）。日出 7・12、19、8・7</p> <p>7・20 祇園会鯉山新調、例年より1日早く山建。日出 7・11</p> <p>7・25～（15日間）坂井座、三友会⁽⁸⁾再興行。日出 7・31</p> <p>8・1 祇園館、坂東義助一座開場。日出 7・21</p> <p>8・7 南座、武知元良・青柳捨三郎両一座合同興行⁽⁹⁾開場。日出 8・7</p> <p>8・9 常盤座、福井茂兵衛一座開場。⁽⁹⁾同上</p> <p>8・14 伏見平野町の小屋、新道開通し、増築落成「桃城盤座」と名付け開場式挙行。日出 8・14</p> <p>9・1 木村周平・細井実・原田孝治ら新演劇「尚風会」結成、富栄座で発会興行開場。（17日から祇園館。10・10から千本北座で興行）。日出 8・28、9・13、10・10</p> <p>9・1 坂井座、東京下り市川重五郎一座開場。（10・1二の替り、「日清戦争新狂言」を仕組、11月も続演）。日出 8・26、9・20、10・19</p> <p>9・1 南座、坂東義助一座興行。13日打上。日出 9・2、11</p> <p>9・15 南座、泉祐三郎一座開場。日出 9・15</p> <p>9・一 千本座、青柳捨三郎興行。日出 9・22</p> <p>9・一 明進学館附属少女唱歌会設置。⁽¹⁰⁾12名で組織、依頼に応じ出演。日本の洋楽百年史、秋山竜英編</p> <p>10・1 南座、雁治郎・福助一座開場。</p> <p>10・10 千本北座、木村周平一座開座。日出 10・10</p> <p>10・1～11・10 静間一座結成常盤座で興行。日出 10・9、11・8</p> <p>10・25～29。11・1～7 祇園館、泉祐三郎一座興行。日出 10・24、30、11・8</p>	

京	都	府	日	本
<p>11・1 南座、彦六座越跡太夫一座開場。日出 10・27</p> <p>11・30 南座、雀右衛門・雁治郎・福助一座顔見世興行開場。12・15打上。日出 11・20、12・16</p> <p>12・9 京都能楽堂で第5回観世・金剛合併能狂言開催。日出 11・30</p> <p>12・17 南座、呂太夫一座浄瑠璃開場。日出 12・18</p> <p>12・14～24 東京壮士俳優望月義雄一座興行。日出 12・14、25</p> <p>12・19 大阪音楽株式会社支部京都に設置⁽¹⁰⁾（富小路二条下）。（28・1から事業開始）。日出 12・15</p> <p>12・20 新京極各興行場1月興行準備のため本日から休業。日出 12・20</p>	<p>11・1 南座、彦六座越跡太夫一座開場。日出 10・27</p> <p>11・30 南座、雀右衛門・雁治郎・福助一座顔見世興行開場。12・15打上。日出 11・20、12・16</p> <p>12・9 京都能楽堂で第5回観世・金剛合併能狂言開催。日出 11・30</p> <p>12・17 南座、呂太夫一座浄瑠璃開場。日出 12・18</p> <p>12・14～24 東京壮士俳優望月義雄一座興行。日出 12・14、25</p> <p>12・19 大阪音楽株式会社支部京都に設置⁽¹⁰⁾（富小路二条下）。（28・1から事業開始）。日出 12・15</p> <p>12・20 新京極各興行場1月興行準備のため本日から休業。日出 12・20</p>	<p>1・2 初代中能島松声没、57歳。</p> <p>1・一 浅草座、川上音二郎「意外」（2月、「又意外」・3月、「又々意外」興行）。</p> <p>2・一 京都の泉祐三郎一座、歌舞伎座で興行。</p> <p>5・26 坂東太郎没、63歳。</p> <p>5・31 大阪名優4世嵐璃寛没、57歳。</p> <p>6・7 吾妻座、角藤定憲一座開場。</p> <p>6・16 東京音楽学校教師デイトリツヒの送別演奏会、大日本音楽会主催、鹿鳴館で開催（7月帰国）。</p> <p>7・14 市村座再築開場式（菊五郎・芝翫一座）。</p> <p>8・1 清国に戦宣布告。</p> <p>8・31 浅草座、川上音二郎一座「社絶快絶日清戦争」大入、12・3、市村座「戦地見聞実記」興行。大入。</p> <p>9・一 演歌師起る（壮士の大道での流行歌読売り）。</p> <p>10・一 明治座「会津座明治組重」（日清戦争劇）、左団次ら上演。</p> <p>11・24 東京音楽学校講堂で開催の音楽会に、外国人2人で「ファウスト、第一幕、書齋の場」を演じた。これが歌劇の日本初演。</p> <p>この年 ▷ 軍歌、「雪の進軍・道は六百八十里」歌われる。</p>	<p>1・2 初代中能島松声没、57歳。</p> <p>1・一 浅草座、川上音二郎「意外」（2月、「又意外」・3月、「又々意外」興行）。</p> <p>2・一 京都の泉祐三郎一座、歌舞伎座で興行。</p> <p>5・26 坂東太郎没、63歳。</p> <p>5・31 大阪名優4世嵐璃寛没、57歳。</p> <p>6・7 吾妻座、角藤定憲一座開場。</p> <p>6・16 東京音楽学校教師デイトリツヒの送別演奏会、大日本音楽会主催、鹿鳴館で開催（7月帰国）。</p> <p>7・14 市村座再築開場式（菊五郎・芝翫一座）。</p> <p>8・1 清国に戦宣布告。</p> <p>8・31 浅草座、川上音二郎一座「社絶快絶日清戦争」大入、12・3、市村座「戦地見聞実記」興行。大入。</p> <p>9・一 演歌師起る（壮士の大道での流行歌読売り）。</p> <p>10・一 明治座「会津座明治組重」（日清戦争劇）、左団次ら上演。</p> <p>11・24 東京音楽学校講堂で開催の音楽会に、外国人2人で「ファウスト、第一幕、書齋の場」を演じた。これが歌劇の日本初演。</p> <p>この年 ▷ 軍歌、「雪の進軍・道は六百八十里」歌われる。</p>	
参 考				
<p>(1) 旭座は抵当に14,500円の借金返済不履行にからんで債権者と紛争、競売に附せられることになったが異議申立て、解決を見たものか、昨年暮着手した改造も落成したので蓋開けとなったものと思われる。日出 2・15</p> <p>(2) 市川糸八（1846～1913）本名守住けい。初め岩井半四郎弟子、後団十郎弟子、女団州と称される名女優。明26東京三崎座々頭となる。新派・新演劇にも出演。笑燕・桂二・桂升・かつら・和歌太郎・紫女八・糸寿ら一座のこの公演には、「仮名手本忠臣蔵十幕・油坊主闇夜墨衣一幕・雪墨廓逢引（揚巻・助六）五幕・京鹿子娘道成寺一幕」・二の替り「人間万事金世中・弁慶安宅関・娘好浮名横櫛・六歌仙」上演・日出劇評（3・13、14、15）に糸八の老熟、笑燕の精練、桂二・桂升の活達と四人の演技を賞揚。</p> <p>(3) 祇園町では明年の博覧会までに整備拡張を計り、女紅場の敷地を開いて移転、その跡へ貸席を建築、花見小路の家屋を2階建に改造、建仁寺町と南園小路から花見小路へと一直線の道を作る計画。日出 3・15</p> <p>(4) 唱歌専修科卒業生14人、京都出身4人、練習科修了2人京都出身者。日出 4・15</p> <p>(5) 初め10日間の予定を日延べし20日間開催。毎日6,000人の観客を数え、計12万人に及ぶ。見物料1人1番4厘。総額480円、他に賽銭・灯明料も相当額。日出 5・12</p> <p>(6) 祇園新地は工費2万円で計画、先斗町では有力者の間に新築念願強く、宮川町は毎月温習会を催し工費積立。日出 5・3</p> <p>(7) 欧米の風に倣い、日本織物会社（桐生）の製品「織姫褌子」の宣伝のため製品主題の脚本を東京劇場で上演することを稲畑が日本織物専務佐羽</p>				<p>↑に勧め、竹柴其水に委嘱の脚本「織姫褌子緑色糸」が、左団治一座によって上演せられた。大当りであった。この種の試みは日本では最初のこととされる。稲畑は浮世絵師野村芳国筆「金閣の風景」の縮緬地緞帖を贈呈。</p> <p>(8) 木村・金泉・静間が組んだ三友会はこの興行後解散、木村・静間はそれぞれ一座を組織する。</p> <p>(9) 8月日清戦役始まり、演劇・講談など事変を盛込み上演するものが多い。南座では「朝鮮事変金玉釣五幕」・常盤座では「金朴暗殺始末七幕」など、続いて12月に至るまで新京極の各興行席は講談・落語・俄・芝居に日清戦争もの花盛りであった。</p> <p>(10) 本社の大阪音楽株式会社は陸軍々楽隊出者を含む10名以上の楽手から成る。京都支部は楽手7名が活動の母胎。博覧会・品評会その他の催しに出張奏楽を業とし、奏楽部長は明進学館主田島教恵、楽長は海軍楽手出身坂本寛三郎、株主は市有力者50余名、京都唯一の音楽隊。少女唱歌会も同じ経営者。音楽隊の出張料は3時間以内20円、1時間増す毎に1円加算。 日本の洋楽百年史、日出 28・1・5</p>

京	都	府
1・1 新京極パノラマ館「旅順口陥落」で開場、1～10日まで入場者数5万人。 日出 1・11		5・17 幾代亭、三遊亭円生を招く。「人情話粟田」を話す、毎夜超満員。 日出 5・19
1・18 夷谷座、由尾らの芝居打上、改築工事着手、3・15までに竣工予定。工費15,000円。 日出 1・22、27、12・11		5・21 祇園館、泉祐三郎開場(6・9千秋楽。11日から岩神座興行、7・1 祇園館興行)。 日出 5・21、6・11、23
1・18 常盤座、静間一座打上(あと大津末広座に行く)。 日出 1・19		5・23 俄師栗亭東玉、玉翁と改名、福井座で大寄せ開催、鶴屋団十郎来演。 日出 5・25
1・20 先斗町歌舞練場を女紅場に新築着工。 日出 1・13		5・24 観世能楽堂催能、観世清廉・大西鑑一郎・金剛謹之助出演。 日出 5・24
1・25 常盤座、市川団太郎一座開場(2・27二の替り)。 日出 1・23、2・23		6・1 上七軒歌舞練場増築落成、1～3日温習会開催。 日出 5・29
1・一 南座、1月早々福井茂兵衛一座開場。「日清戦争もの」上演。(二の替り2・7～3・7、27、28節休業3・1～5続演)。 日出		6・10 先斗町歌舞練場新築落成、楽屋未完、 ⁽⁴⁾ 鴨川踊開演。 日出 6・12
2・17 申楽クラブ第6回会、3月開催を繰上げ、舞台を本格的に改造。 日出 2・17		6・一 博覧会場外の余興毎夜興行。 日出 6・22
3・1 戦捷祝賀会御苑で挙行。 ⁽¹⁾ 会衆円山公園まで進行祝宴を開催、夷谷座の俳優揃いの衣裳で市中を練歩く。 日出		7・10 府令56号で祭礼差止め公布。コレラのため。 日出 7・11
3・10 京都能楽堂月次能開催、片山九郎三郎・大江又三郎・金剛鈴之助ら演能。 日出 2・27		7・17 コレラ蔓延のため祇園祭10月(山鉾巡幸18日)に延期。 日出 10・1
3・一 警察、各劇場寄席の構造検査施行。坂井座・富栄座・寄席3に改築命令。 日出 3・2、6		7・23 南座、文楽、呂太夫一座浄瑠璃開場。 日出 7・23
3・一 富栄座は山田庄太郎が買い受け「京極座」と改称。 日出		7・25 坂井座、延二郎一座子供芝居開場(8・10打上)。 日出 7・24、8・9
4・2 常盤座、雁治郎・福助・多見之助一座開場。 日出 3・27		8・2 常盤座、福井茂兵衛一座。 日出 8・2
4・3 夷谷座、3階建に改築、落成式挙行。4日から開演(4・15から毎日7番演舞)。 日出		8・4 浄瑠璃三味線名手5世鶴沢友次郎没。81歳。 日出 8・13
4・7～5・4 都踊興行、入場者総数64,195人。 日出 4・3、11、17、5・7		8・16 南座、雁治郎・福助一座開場。 日出 8・15
4・11 千本座、静間一座開場。 日出 4・13		8・17 府会64号で演劇寄席その他興行差止め公布(10・1廃止)。 日出 8・17、10・1
4・21～5・8 壬生狂言開催。30日から3日間は新作ものを上演。 日出 4・20		8・25 府令121号で郡部の祭礼など差止。 日出 8・27
4・24 久田家10代吸江齊宗悦没、40歳。 京の茶家		9・8 渡辺知事市各組役員を招き「平安協会」設立、時代祭のことにつき協議。 日出 9・7、10
4・27 南座、川上薫一座開場 ⁽²⁾ (興行芸題替して、7月中頃まで続演)。 日出 4・13、7・16		9・17 日出新聞に十字屋発売「紙腔琴」(一種の原始的蓄音器)発売広告初めて掲載。 日出 9・17
4・30～5・2 奠都記念大祭挙行 ⁽³⁾ の予定急に延期。 日出 4・28		10・14 南座、川上薫一座開場(11・4まで)。 日出 10・6、11・5
5・12 金剛能楽堂改築落成式。18、19両日舞台開能会。 日出 5・10、14		10・15 千本座、静間小次郎一座開場(27日打上。11・1続演)。 日出 10・15、27
5・12 常盤座、松旭齊天一(先年天覧)奇術開場、本月中興行(6・17から伏見福富座で興行。大入り)。 日出 5・11、6・21		10・17 札能開催、観世清廉「小鍛冶」演能。 日出 10・17
5・15 葵祭執行。社頭・順路群衆蟻集し甚だしい雑踏。 日出 5・16		10・20～11・4 都踊開催。 日出 10・6
		10・22～24 平安遷都千百年記念祭挙行。 ⁽⁵⁾ 雅楽部芝葛鎮楽長ら33名舞楽・東遊を奉仕。 日出 10・5
		10・22～24 記念祭余興能狂言・楽隊など。桂の六斎踊奉納。 日出 10・15
		10・25 時代祭挙行。 日出 10・24

京	都	府	日	本
11・1 坂井座修繕落成。延二郎一座子供芝居開場、20日まで、24日芸題替。 日出 10・22、11・16、21				2・一 市村座、川上音二郎一座「明治四十二年」上演。男女合同劇を標榜、女優市川九女八・市川かつら出勤。
11・7 祇園乙部温習会再興。 日出 10・26				2・一 芝紅葉館で、第1回「劇談会」開催、長田秋濤幹旋により西園寺公望主賓、福地桜痴・末松謙澄・尾崎紅葉・高山樗牛・松居松葉・岡本綺堂が参会。1回で消滅。
11・9、10 観世・金剛合同して今宮神社へ能楽奉納。 日出 11・2				3・21 「大師会」、益田鈍翁により発会。鈍翁弘法大師座右銘十六字一巻を入手したのに因み、大師の縁日をトして催す。東京年中行事大茶会。
11・13～17 記念踊に全市沸騰。 日出 11・6				4・16 10世片岡仁左衛門没、45歳。
11・15 祇園館、福井一座開場。12・3まで。9日岩神座で開場。 日出 11・10、12・7				5・一 川上音二郎一座、歌舞伎座で「威海衛陥落」上演。書生芝居が歌舞伎の牙城を奪ったと評判。
12・3 南座、福助・雁治郎一座顔見世興行開幕。 日出 11・28				8・一 上原六四郎「俗楽旋律考」刊。
12・7 五条署長管内興行席を檢分、不備不完のところは年内修繕を命ず。新京極では該当7軒。 日出 12・28				9・一 大阪にコレラ流行、道頓堀劇場3日間興行停止。
				11・9 幸田延子、ドイツ留学から帰朝。
				この年
				▷ 軍歌「雪の進軍・勇敢なる水兵」、「京の四季」流行。
				▷ 官吏・弁護士間に謡曲流行。
				▷ 保存事業を行うことにした。第4回国勧業博覧会は4・1～8・31開催。会期3カ月延長を当事者は希望したが実現しなかった。
				(4) 落成したが構造につき部内に異論起り延期となったので、事務所を敷地内に建て、舞台を西手に棧敷を鴨川寄りに改築する。 日出 7・25
				(5) 各町々各遊廓新奇な趣向をこらし市の総踊りを繰り上げた。祇園新地は屋台2台と花車を出し400余人の芸舞妓が神宮参拝し市内をねり歩く、夷谷座は女優一同山鉾を曳出し神宮で所作事を演ず、各町も「エライヤツチャ」を高唱、踊り行列、或は屋台を曳くなど、特に17日は日曜でもあり踊りの行列平安神宮へ向うもの引きもきらず、午後3時頃人山を築く有様。まさに市中総踊の体。 日出 11・6、15、19
				延期のため、京都市参事会・記念祭協賛会連名で、俄に延期の旨招待者各位に告げる広告文が4・28附日出新聞に掲載された。3大事業の他大極殿遺趾建碑・平安京の実測・社寺名勝旧跡修理

京	都	府
1・14 京極座、木村周平一座芸題替。(2・4千本座開場)。 日出 1・15、2・4		6・7、8 西本願寺南能舞台再建 ⁽⁵⁾ 舞台開挙行。 日出 6・4、5
1・18 南座、川上薫一座打上。 日出 1・18		6・9、10 片山能楽堂で故片山九郎三郎7年忌追悼能会。 ⁽⁶⁾ 日出 6・5
1・一 祇園館、福井一座興行、好評。 日出 1・8		6・17 常盤座、市川滝三郎一座開場(7・13二の替り)。 日出 6・16、7・11
2・1 坂井座、延二郎、雀三郎一座開場。(3月も興行続く)。 日出 1・29、2・27		7・4 三陸地方大津波義捐興行京楽会祇園館で開催(夷谷座7日・坂井座8日・常盤座11日開催)。 日出 7・4
2・4 南座、福助・雁治郎一座開場。(2・20打上)。 日出 2・4、20		7・10 南座、川上薫一座開場、「明治孝子の仇討」上演。 日出 7・9
2・22 祇園館、名古屋初上り源氏節岡本美代治一座開場(3・28まで続興行、開場以来非常な大入)。 日出 2・22、3・21		7・12 片山能楽堂別会能開催。片山・大西鑑一郎・生一左兵衛演能。 日出 7・10
2・一 京極座、中村仙昇・嵐芳五郎一座開場(3・15二の替り開場。4・12三の替り)。 日出 2・4、3・17、4・11		7・22 南座、越路太夫一座開場。 日出 7・21
3・13 南座、金泉丑太郎一座開場。 日出 3・12		7・一 明31豊公300年祭挙行のため「豊国会」の趣意書・規約決定。 日出 7・29
3・28 祇園館、木村周平・細井実・秋月桂太郎・青木千八郎ら一座開場(4・15芸題替え)。 日出 3・22、4・10		8・1 祇園館、山口一座開場暑気のため数日休業、8・14再開場。 日出 7・25、8・15
3・29 京都能楽堂催能。観世清廉・大江又三郎・片山九郎三郎・大西鑑一郎演能。 日出 3・27		8・14 南座、高知壮士芝居弥生団 ⁽⁷⁾ 開場。 日出 8・11
4・3 南座、延二郎一座開場(大津興行打上げ、この日疏水を舟で乗込)。24日打上。 日出 4・2、21		8・一 音楽講習会開設。(明進学館主田島教恵講師、本願寺文学寮・第三高等学校青年会の有志団体)。 音楽雑誌 明29・8
4・7~22 鴨川踊開催(昨年より観客増加)。 日出 4・24		9・1 南座、泉祐三郎一座今様能狂言開場。(9・27千秋楽。10・1~12岩神座で興行)。 日出 8・30、9・27、10・9
4・10 常盤座、川上音二郎一座開場(非常な人気)。4・26打上。 日出 4・12、28		9・1 祇園館、源氏節岡本美代治一座開場。 日出 9・1
4・14 坂井座、さの太夫一座浄瑠璃開場。 日出 4・15		9・1 平安神宮で夕5時(雨天順延)より金剛流薪能開催。 日出 9・1
4・8~4・28 都踊開催。毎日平均1,700人普通券入場。 日出 4・22		9・17 京極座、壮士芝居共和会中村一座開場、「讃岐七人斬」上場(10・10から南座で興行)。 日出 9・17、10・10
4・21 楨村正直(2代知事)没。		9・22 岩神座、日本女優改良演劇会と称する中村寿子一座開場 ⁽⁸⁾ (10・10南座で開場)。 日出 9・22、10・10
4・27~5・28 坂井座、延二郎一座興行(本年中打続)。 日出 4・21、5・26		10・1~8 南座、彦六座大隅太夫一座興行。 日出 10・10
5・1 南座、山口定雄一座開場。 ⁽¹⁾ 14日打上。 日出 4・26、5・14		10・4 観世能楽堂で片山九郎三郎宰主、祖父九郎右衛門33回忌追善能挙行。九郎三郎・林喜右衛門・生一左衛門・大江又三郎演能。 日出 10・8
5・5 中竹座(大宮寺之内西)は所有者変り、寿座と改称、源氏節岡本美根登司一座開場。 日出 5・6		10・8 下鴨神社札能金剛流が奉納。 日出 10・8
5・9 京都クラブで、菊岡・八重崎検校 ⁽²⁾ 50年祭を「琴優社」主催挙行。 日出 5・9		10・22 時代祭挙行。 日出 10・8、23
5・11 常盤座、左団次一座開場、 ⁽³⁾ 大人気(26日打上)。 日出 5・12、27		10・一 宮川町歌舞練場に鴨東幼稚園を買収、改修して使用に決定、12月中旬完成。 日出 10・22
5・26、27 俄師東ン貴、初春亭春蝶と改名、披露諸芸大会「ふくべ座」(新京極六角下「角の家」の南隣「大西席」が改称)で開催。 日出 5・26		11・1 福栄座(猪熊下長者町)、岡本美代治一座源氏節説教狂言開場。 日出 10・31
6・2 常盤座、川上音二郎一座、川上病気のため藤沢浅二郎座長となり、開場。大入り。 日出 5・27、6・4		11・1~11・15 新京極河村座、岡本美代司一座説教身振狂言興行。 日出 10・31
6・2 大黒座、 ⁽⁴⁾ 岡本美根登司一座開場。 日出 5・29		11・2 南座、市川糸八一座女芝居開場(11・16打上)。 日出 10・31、11・19
6・7 南座、右団次一座開場(21日打上)。 日出 6・5、21		

京	都	府	日	本
11・16 堀内家7代至慎齊宗完没、70歳。 京の茶家			1・一 団十郎歌舞伎座で「娘道成寺」上演にピアノ・ヴァイオリン使用。	
11・一 常盤座、沢村源之丞一座興行。源之丞千本桜忠信の役、妙技絶賛。 日出 11・11、19			2・5 2世杵屋勝三郎没、77歳。	
12・3 南座、福助・雁治郎ら一座顔見世興行初日(18日打上)。 日出 11・29、12・5、16			2・15 中尾都山、都山流創始、大阪に尺八指南所開設。	
12・31 南座、新演劇共和会中村秋孝・杉本政雄ら一座開場。大阪から乗込。 日出 12・26			3・一 歌舞伎座株式会社設立(11・11、12新会社として開場式)。	
12・一 常盤座、坂東和好・中村福円一座興行。(和好二銭団州 ⁽⁹⁾ と呼ばれ福円とともに円熟の俳優)。 日出 11・25			4・5 林広守(明3東京移住雅楽部副長)没、66歳。 日出 4・11	
			4・一 春木座株式織組となる。 伊原明治演劇史	
			4・一 東京音楽学校校友会第一回演奏会。	
			6・一 東京神田に川上音二郎の川上座開場。 秋葉、日本演劇全史	
			6・一 名古屋御園座開場。	
			7・1 能楽会(能楽社改組)設立(会頭土方久成)。芝能楽堂能楽会附属となり、11・8第1回式能開催。 能楽盛衰記・下	
			7・一 横浜ホーン商会蠟管蓄音器初めて輸入。	
			7・一 株式会社広告塔初めて専属吹奏楽隊で宣伝活動。	
			9・8 高田実・小織桂一郎ら新派劇団「成美団」結成、大阪角座で旗上。	
			9・9 歌舞伎座、東京養育院慈善興行(のち慈善演劇しばしば開催)。	
			10・31 3世杵屋正次郎没、69歳。	
			11・20 春木座、株式会社。	
			11・一 エジソン発明のキネマトスコープを初めて神戸に輸入、上映。 日本映画発達史	
(1) 山口定雄・津坂常一郎・古川緑波・亀井鉄骨・島田二郎ら一座。「都新聞、娘義太夫・雪月花三段返し」雪月花は電気応用、終幕の山口の扮する白拍子花子の舞は好者、壮士俳優とは思われず、頭飾・花傘まで電灯け、舞台一面桜の花に電灯をつけ華麗極まるどころがない。 日出器評 5・7				
(2) 菊岡検校(〜1849)生田流箏曲家・三味線作曲演奏家・文化文政期の名手。 八重崎検校(〜1848)箏曲家文化文政期京阪箏曲界の名手。 菊岡多く三味線名曲作曲、八重崎により、箏曲に編曲、三味線箏の合奏流行。				
(3) 左団次・米蔵・荒次郎・多見之助・升若・薙女・左伊助・小半次・左伊三・佐喜蔵・菊四郎・小米・伊次・好太郎・左目蔵・薙蔵・薙三郎。「有職鎌倉山五幕・箱根靈験甞九討一幕・菅原伝授手習鑑二幕・魁源平躑躅・御目得狂言暗闘伊達模様好織分一幕・慶安太平記三幕」。 日出 5・7				
(4) 大黒座は明28・5京極座と改名したのであるが世間では旧称をも呼び名としていたのであろうか、相変わらず大黒座の名が新聞にも出る。明32・5改築し、再び旧名大黒座と改称することになる。				
(5) 西本願寺では国宝の北の能舞台の外に唐門内対面所前広場に南の能舞台があった、これは維新の排仏毀釈の波で取払われたが、再興。観世清廉・宝生九郎・梅若六郎出演。 日出 6・4、5				
(6) 番組9日。鶺鴒(真如月)林喜右衛門・木曾(願書)観世清廉・遊行柳(青柳舞)生一左兵衛・花筐(大返し)宝生九郎・石橋(大獅子)大江又三郎・片山九郎三郎。狂言蚊相撲・武悪・釣狐・福部の神。10日。山姥(法会協能の式)生一左兵衛・安宅(勧進帖)大西鑑一郎・井筒(彩色)観世清之・道成寺(赤頭)観世清廉・錦戸片山九郎三郎・海人大西亮太郎。狂言観猿・縄綱・花盗人・仁王。				
				7(7) 弥生団は北村生駒・敷島秀夫・徳田安二・石藤國雄・島村一憲。「土佐土産書生の腹五幕・唇気楼眺の鐘二幕」暑中に拘らず趣変り好評大入り。 日出 8・18
				(8) 芸題「金比羅利生記・梅川忠兵衛恋の意気地」余興に女権拡張論・女優演劇改良の方針など討論を行う。上り高実費差引き水害罹災者へ寄附。 日出 9・22
				(9) 和好は坂東三津五郎門系で坂東和好と名のり東京を本場とし、小芝居柳盛座に抛り、入場料が二銭であったので、「二銭団州」とあだ名されていた。明24、5年頃から売り出し劇評家から注目された。のち坂東又三郎と改名、浅草草戸座に移り好評、明32・8歌舞伎座の舞台を踏む。 岡本綺堂、明治の演劇

京	都	府
1・1 坂井座、延二郎一座開場(一座32・1まで連続興行のち東京へゆく)。日出 1・1、明32・1・29	5・22 壬生狂言開始。期間13日間に延長。(84歳の八木源之丞「羅生門」の「綱」に出場。日出 5・8	
1・1 常盤座、和好・福円に大阪若手3人加わる。「備前騒動・吃又・吉野山」。日出 1・1	5・31 南座、新演劇成美団で開場。 ⁽³⁾ 初日無料(6・20打上。26日二の替り、7・5頃打上)。日出 5・25、28、6・22、25	
1・1 パノラマ館、尾半・小半俄興行(29・12から本年8月頃迄連続興行、3月頃から玉翁加わる)。日出 1・1	6・25 福井座、大川春吉と岩井米花一座の合併興行開場。「奥州安達原・恋女房染分手綱・極附幡随院長兵衛・銘作切子曙」。日出 6・17、22	
1・13~15 英照皇太后大葬(1・11没)、興行場・遊廓歌舞音曲停止、一般は30日間。日出 1・14	6・27 第3回慈善演芸会受楽亭で開催。日出 6・24	
1・一 南座、中村秋好一座の1月興行大人気。(3・15打上げまで興行連続、あと岩神座へ乗込)。日出 1・7、3・13	7・13 常盤座、活動写興行開場。京都座興行のより大型で鮮明。日出 7・16	
2・一 新京極劇場寄席歌舞音曲停止明け後、ほとんど1月の続き興行を10日前後開場。日出 2・9	7・15 南座、大阪の俄師鶴屋団十郎一座で納涼興行開場。	
3・21 常盤座、福井茂兵衛一座開場。(非常な人気、4・15まで日延。日出 3・20、4・14	7・15 京極座、実川正若一座納涼興行開場。日出 7・15	
3・28 南座、泉祐三郎一座今様能狂言開場。日出 3・28	7・25 南座、越路太夫一座浄瑠璃開場。(8・5打上)。日出 7・23、8・7	
3・30 新京極受楽亭で慈善演芸会(第1回)開催。興行中の芸能人オンパレード、延二郎・雀三郎(舞)・祐三郎(能)らも出演(30円盲啞院へ寄附)。日出 3・26、4・2	7・一 常盤座、実川正若一座興行。日出 7・1	
3・一 京極座(旧名東向。大黒座・富栄座)、自動幻画興行。 ⁽¹⁾ (毎日大人気、新にフランスからフィルム到来、4・1から10日間70歳以上の老人無料)(5・6月興行続行)。日出 2・28、3・26、4・30、6・1	7・一 新京極パノラマ館で俄興行の玉翁・尾半一座蓄音器使用、音声明瞭、珍らしくて一興。日出 7・16	
4・7 都踊開幕(~30)。日出 4・7、5・1	8・15 祇園館、福井茂兵衛一座開場。(8・31打上)。日出 8・12、9・1	
4・11 幾代亭へ東京松林伯知・知鶴出勤。日出 4・11	8・21 常盤座、川上音二郎一座開場。(9・6千秋楽)。日出 8・18、9・8	
4・24 常盤座、東京女優岩井米花一座(桂升・かつら・紫女八・象寿ら)開場。(5・6月打越)。日出 4・21、30、6・1	8・30 南座、雁治郎一座開場。(9・16打上、19日から伏見大手座で翫雀追善興行)。日出 8・28、9・16、17	
4・24 坂井座で第2回慈善演芸会開催。日出 4・21	8・一 福栄座(猪熊通下長者町)、嵐鱗子一座興行。(14日から大川春吉一座開場)。日出 8・6	
4・25 祇園館で三絃・三曲・尺八・琴・浄瑠璃・余興祐三郎今様能狂言などの番組で慈善音曲会開催。同上	8・一 丹波・福知山地方部内盆踊中止。(同地方盆踊華美に流れ、昨年水害の際政府補助金、義捐金を受けた事情もあり自粛)。日出 8・12	
5・1 鴨川踊例年会期よりおくれ開幕、16日まで。日出 5・4、18	9・1~27 坂井座、実川延二郎亡父延若の追善興行。日出 8・28、9・22	
5・4 祇園館、壮士芝居白虎隊荒木清一座開場。(20打上、5・22)。日出 5・4	9・30 南座、中村梅昇 ⁽⁴⁾ 一座開場(大津大黒座興行打上後乗込。「大江山通し・勸進帖一幕」(10・18。打上げ)。日出 9・25、10・22	
5・6 南座、沢村源之丞一座開場。(5・20打上)。日出 5・22	9・一 京都座、正若一座興行、20日打上げ、30日10月興行開場。日出 9・26	
5・7 富川町歌舞練場新築開場式挙行。日出 5・9	10・3 本覚寺(下寺町五条下)で波多野幸一総検校の250年祭挙行。日出 9・30	
5・15 常盤座、演劇株式会社創立、改築協議 ⁽²⁾ (6・30農商務省から認可)。日出 5・18、7・8	10・6~8 祇園館で不就学児童援助慈善演芸会開催。 ⁽⁵⁾ 日出 11・9	
	10・22 時代祭挙行、山国隊参加。日出 10・23	
	10・23 京都興行同盟会、同業組合に更改。 ⁽⁶⁾ 日出 10・24	

京	都	府	日	本
10・25 常盤座、福井茂兵衛一座開場(顔見世興行のため11・13打上)。日出 10・19、11・9			2・15 フランスのシネマトグラフ南地演舞場で上映(稲畑勝太郎が輸入)。	
11・3 福知山南陽社支部では、朝暉神社に能楽奉能。日出 11・2			2・22~3 アメリカのヴァイタスコープ新町演舞場で上映。	
11・20 常盤座、福助・我当一座開場(12・10打上げ)。日出 11・22、12・7			3・6 東京錦輝館、ヴァイタスコープ興行。	
11・28 南座、右団次・雁治郎一座顔見世初日(初日から大入り。12・16打上)。日出 11・16、12・11			3・10 神田三崎町東京座、新築落成開場。	
12・15 伏見大手座株式会社設立申請。日出 12・16			5・一 浅草座、子供芝居興行。	
12・19~21 坂井座、芸人合同演劇興行開催。日出 12・15			5・一 幸田延子自作ソナタ発表。	
12・一 千本北座、坂東大喜蔵一座(13日~3日間)、岩神座、雀三郎一座の興行甚だしく不入。日出 12・17			5・一 駒田好洋活弁創始。	
			5・一 円盤蓄音器輸入。	
			6・28 尾上菊之助没、30歳(菊五郎養子、好評続きの俳優)。	
			6・一 日本最初の映画、小西商店で試作。	
			7・9 市川新蔵没、37歳(10代団十郎候補者と世間で云われた有望の俳優)。	
			8・21 12世守田勘弥没、52歳。	
			8・一 東京長唄組合結成(6世杵屋三郎助・3世松永和風)。対抗して東京長唄新組合結成(杵屋勘兵衛・2世宝山左衛門)。	
			10・一 真砂座、伊井蓉峰ら、モリエール「守銭奴」翻案上演。	
			11・20 同声会主催秋季音楽会で、橋糸重(ピアノ)がベートーヴェン、パセティック・ソナタ、島崎赤太郎(オルガン)がバッハ、トツカータとフーガ演奏。	
			この年	
			▷ 大阪に日本花道諸流同盟「花友会」成立。	
			▷ 「講談雑誌」(速記による専門誌)創刊。	
			▷ 唱歌調、学校を中心に民間に広がる。	
			▷ 「軍艦マーチ」流行。	
			▷ 矢野勘次郎・永瀬義郎・橘省左右・木下吉之助・三上繁・金子弥太郎・倭輝久雄、芸題「探偵実話、百万円十一幕」 日出 5・25、28	
			(4) 中村梅昇は明21年にも一座を組み、5月から7月にかけて四条南・北の劇場に出演した。南ではやはり「大江山・勸進帖」を演じ、北では「恋の暗鷓鴣の燎・三番番の内望月・源氏鏡・所作事郡野の夢」を上演。	
			(5) 近來物価騰貴のため不就学児童続出、援助資金獲得のため、嵯峨村中山平右衛門ら発起し挙行。藤兵衛・琴書・竹本呉大夫・延二郎・魯山・藤村みとら出演。	
			(6) 規約41カ条を設け営業地域を上京・新京極・新京極を除く下京の三区に分け向上を計る。規約の認可を申請した。	
			(1) 今日の映画の歴史的な第一歩は19C末に欧米各国で「動く写真」の撮影・映写装置の発明という工夫が重ねられていたことから始る。エヂソンが1891年セルロイドフィルムに1秒46コマの影像撮影に成功、次いで1893年キネトスコープと呼んだ覗き眼鏡式の映写装置を発明した。明29これが輸入され、11月神戸で公開された。これより進歩した、覗き眼鏡式でなく映写幕に投映、多くの人の見うる装置、シネマトグラフが1895年2月フランス、リュミエール兄弟により発明され、これに接した渡仏中の稲畑が明30年1月帰国に際してもたらした。輸入されたシネマトグラフは初め「自動幻画」と称され、早くも京極座で初公開を見た。ほとんど時を同じくしてアメリカでもエヂソンが同様の装置を作り、「ヴァイタスコープ」と呼んだ。この方は大阪の荒木和一、東京の荒居商会の手で別個に輸入され、明30・2、3月踵を接してそれぞれ大阪・東京で興行された。こちらの方は「活動写真」と名付けられた。 稲畑勝太郎伝、田中日本映画発展史	
			(2) 常盤座々主渡辺謙助は井種(富小路松原下)に有力者・新聞記者ら35名を招き、設立の株式会社と改築について協議、6・30認可。建物240坪を会社に売却、会社は楽舞舞台を4階建とし、場機敷舞台を改造する。資本金9万円、1株20円、創立発起人は市の財界有力者120余人並ぶ。 日出 5・18、7・8	
			(3) 成美団座員・高田実・岩尾慶三郎・小藏桂一郎・深沢恒蔵・木村周平・秋月桂太郎・大垣賀豊	